

ピーマン類の株元加温の効果および簡易設置方法

園芸作物部

背景

- ハウス内の最低気温が18℃暖房→高い燃料費比率
- 暖房経費削減技術開発への要望
- 福岡県で、促成ナスの株元加温技術開発（鹿児島県促成ナスで普及）
- 株元加温の促成ピーマンへの適応性評価
- 従来の株元加温用トンネル設置に多くの労力が必要

目的

- 促成ピーマンへの株元加温の適応性評価
- 簡易なトンネル設置方法開発が必要

研究内容

- 枝ダクトとトンネルを組み合わせた株元加温がピーマンの生育および収量に与える影響と燃料費削減効果の検討（暖房温度 慣行区18℃, 株元区16℃トンネル内20℃目標）
- 従来の株元加温のトンネル設置より簡易なトンネル設置方法を開発

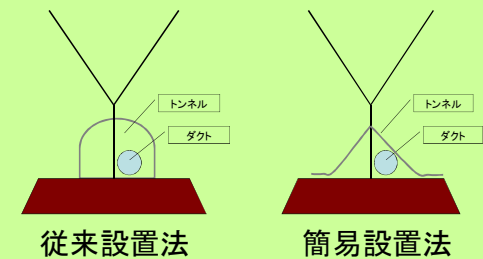
成果の内容・特徴

- 株元加温区の商品収量は慣行加温と同等
- 燃油使用量は約22%削減
- 簡易設置法の作業時間は、従来設置法に比べて4割削減

(25時間/10a)

表 加温法の違いと商品収量

年次	加温法	株元加温 トンネル 設置方法	暖房温度 (°C)		商品収量	
			温室内	トンネル内	(kg/a)	慣行比 (%)
2013	慣行	—	18.0	—	1,410 a	—
	株元	従来法	16.0	20.0	1,464 a	103.8
2014	慣行	—	18.0	—	1,304 a	—
	株元	従来法	16.0	19.0	1,207 a	92.5
	株元	簡易法	16.0	18.8	1,258 a	96.5



今後の展開

- キュウリなど他施設果菜類への適応性拡大